

「医療分野研究開発推進計画」の 実行状況に係る助言と今後の対応について

平成29年6月1日

内閣官房 健康・医療戦略室

文部科学省

厚生労働省

経済産業省

専門調査会の主な助言に対する今後の対応 ①

専門調査会の主な助言

「医療分野研究開発推進計画」においては、基礎研究と臨床現場が連携し研究開発を持続的に進める「循環型研究開発」の重要性が指摘されている。

基礎研究から応用研究、臨床研究及び治験、実用化への橋渡しに加えて、臨床現場から基礎研究への情報共有を促進することで、シーズの将来的な枯渇を防ぎ、有望なシーズの発掘を進めるべき。

医療分野の研究開発においては、実用化といった出口に注目が集まる傾向にあるが、実用化につながるシーズの発掘、検討すべき課題や仮説の設定などが重要であり、基礎研究の充実を同時に図るべき。

その際、多様なシーズをくみ取る観点から、若手研究者の研究にも配慮すべき。

今後の対応(達成に向けた取組予定 等)

臨床研究データを創薬基礎・応用研究にフィードバックすることにより、臨床予測性を飛躍的に向上させ、革新的医薬品の開発につなげる産官学共同rTRプロジェクト(GAPFREE2)や、リバーSTR基盤の形成・強化にも主眼を置いた医療研究開発革新基盤創成事業(CiCLE)等の取組を進めており、臨床現場のニーズを踏まえた循環型研究開発の実現に向けて、必要な環境整備を進める。

AMEDにおいては、出口を見据えた基礎研究の推進にも重きを置いているところであり、引き続き、シーズが枯渇することのないよう、リバーSTRの取組を最大限活用しつつ、応用・臨床研究へとつながる基礎研究の充実に努める。

若手研究者については、特別な枠(若手チャレンジ枠)を設けることとし、その拡大に順次努める。

専門調査会の主な助言に対する今後の対応 ②

専門調査会の主な助言

日本医療研究開発機構(AMED)等から研究費を受けていることをもって、科学研究費補助金の採択に当たり不利が生じないようにすべき。

シーズの発掘やデータベースの構築等にあたっては、科学技術振興機構(JST)との連携を強化すべき。



今後の対応(達成に向けた取組予定 等)

AMED等の他の研究費を取得していることをもって、科学研究費助成事業の配分において不利益な取扱いを行わない旨、関連の規程において明記したところであり、引き続き、無用の誤解がないよう、その周知に努める。

AMEDにおいては、JSTとの間で、これまでも個別案件毎に、効果的な業務の推進のために枠組みを設けて、協力を行ってきたところであり、今後も、必要に応じて、こうした枠組みを設ける等により、医療分野の研究開発を充実させるための連携を深めていく。

専門調査会の主な助言に対する今後の対応 ③

専門調査会の主な助言

研究内容の見える化が重要。開発に着手したAMED研究開発マネジメントシステム(AMS)については、更なるデータの集積を図るなど、その充実に努めていくことが重要。

次世代の研究開発を担う若手研究者をはじめとする人材育成において、予算や人手不足を理由として、育成が疎かになる分野が生じることがないように、長期的な視点に立った対応を行うべき。

今後の対応(達成に向けた取組予定 等)

JSTの協力を得て、AMSの開発及びデータの集積を進めているところであるが、引き続き、医療分野の研究開発に関する各種分析・解析や課題解決等に資するよう、科学研究費助成事業等のデータベースとの情報共有も行いつつ、AMSの充実に努める。

橋渡し研究支援拠点や臨床研究中核病院等において、学生や若手研究者等を対象とした教育や実地研修を通じて、基礎研究から臨床研究及び治験まで精通した人材の育成に努めているところであり、引き続き、研究者のみならず各種専門人材も含め、その育成・確保に取り組む。

専門調査会の主な助言に対する今後の対応 ④

専門調査会の主な助言

マイクロRNA測定技術基盤開発など、他プロジェクトにも関係し得る課題については、有望なシーズや研究課題を見落とすことがないよう、プロジェクト間の連携及び情報共有を行うべき。



今後の対応(達成に向けた取組予定 等)

統合プロジェクトの合同・連携シンポジウムを開催し、関係するプログラム・ディレクター(PD)等が積極的に参画するなど、プロジェクト間の連携及び情報共有等に取り組んでいるところであり、引き続き、AMSも活用しつつ、関連性のある領域の各種施策と綿密な連携を図りながら、研究開発を推進する。